

創作ノート

ウグイスの谷渡り

小坂 直敏

Naotoshi OSAKA

東京電機大学

Tokyo Denki University

1. はじめに

音楽制作において、環境音や自然音から音楽の着想を得ることは一般的に行われている。中でも鳥の鳴き声をモチーフにした作品は古来より数多い。筆者はこれまでに数曲鳥の鳴き声をモチーフにして作曲してきた。本作品では希少価値の高い鳴き声に出会いこれを作品化した。以下は作品に対する報告である。

2. 関連作品

鳥の鳴き声は一般的に音楽的素材として使われてきた。ひとつはカッコウのように擬音語としても定着し記号化されているものとしての利用である。ドイツ民謡やダカンの作品、ラベルのマメールロワにも登場する。(図1) (小坂,2022 より転載)

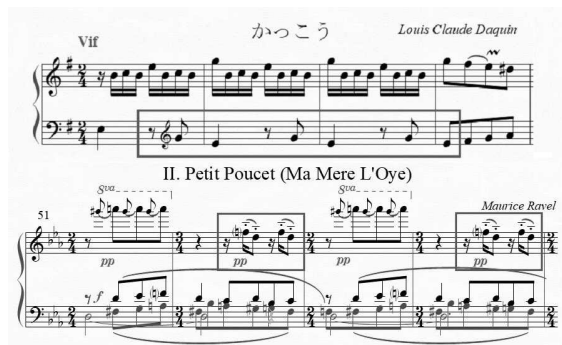


図1: かっこうの鳴き声を取り込んだ音楽作品

上:ダカン「かっこう」(ダカン,1998),
下:ラヴェル マメールロワより第2曲
「親指小僧」(Ravel,2010)

なお、筆者には、かっこうの鳴き声の音程は、これらの作品と異なり短3度でなく、長3度に近く聞こえる。

2.1. メシヤンの鳥を題材とした作品

一方、必ずしも記号化されておらず、種に固有な鳴き声をするさまざまな鳥の鳴き声を模倣したものとして、鳥類に詳しいメシヤンの各種鳥の鳴き声を主題にした作品がある(異国の鳥たち(Messiaen, 1956), 鳥のカタログ(Messiaen, 1958))。この作曲家は来日の際、野鳥の鳴き声を採譜するために、軽井沢に立ち寄った逸話は有名である。このときの採譜に基づいた作品は「七つの俳諧(Messiaen, 1962)」として発表されている。同作品の第3曲山中湖畔の「山中」と第6曲「軽井沢の鳥達」である。

2.2. 鳥を題材とした自作品

筆者も鳥の囀りに魅せられ、これまでに2作品を発表した。一つはキビタキの鳴き声そのものを収録して、この録音とともに、オーケストレーションした作品である(小坂, 2009)。

また、もう一つはピアノのための「黒鶇(くろつぐみ)」(小坂, 2012)である。2つの種の特徴は、鳴き方が止まることを知らないかのように延々と続く点、その鳴き方のパターンが覚えにくく、複雑である点である。

本作品では、鳥の鳴き声の中で、その標準的な鳴き方とまれにしか聞かれない訛り、およびその変形、すなわちヴァリエーションを含んで観測ができるものを音楽素材とした。

3. ウグイスの谷渡り

ウグイスは東アジアに分布する鳥で、わが国全体に分布する。また、漂鳥の場合と留鳥の場合のいずれのケースもある。ウグイスの鳴き方は大別して3つあり、誰もがなじみのある「ホーホケキョ」という鳴き声の他、谷渡り、と地鳴きがある。筆者の体験では、春先には庭に来るが、谷渡りは山の中で聞くため、漂鳥という認識をしている。

また、鳴き声の変形も知られており、ホーホケキョの部分も擬音語化したときに、さまざまな変形がある。筆者もこれまでの聴取体験では、「ホーホケキョ」「ホーホケホケキョ」など、音節の挿入、脱落、リズムの変化などがある。

谷渡りは、このような記号化はされてはいないが、最後の音節の部分の繰り返しを繰り返すもので、一般に急速で激しい。この鳴き方は縄張りを主張するもの、威嚇のためなどと言われている。

筆者はこの鳴き声は年に数回は聞く機会があるが、これまでは、図2に示すとおり、2連の単位が急速に繰り返される鳴き方が一般的である。

しかし、この春、この鳴き声の変形として、3連の音を単位として鳴く個体に遭遇した。これは、訛りともいふべきであろうか、筆者は初めての聴取であった。

3連を単位として鳴く鳥の一つにホトトギスがある。この鳥は通常 2+3 連を単位として鳴くが、時に 2+4 連のこともあり、またその頻度は比較的高く、注意深く観測すれば 4 連は観測可能である。

一方谷渡りが 3 連で鳴くのは一般的でなく、まれである。また、同じ場所で 2 週間後も同様の鳴き方をしていたため、同一個体と考えられる。

図3は3連で鳴く同個体のソナグラムである。さらにこの個体は3連で鳴く変形として、図4に示すとおり、3連を単位としながらも、リズムの変形、音高の順序の交換など、さまざまな変形が観測された。

4. 本作品の構成

本作品は、前節で紹介された、2連、3連音の谷渡り、およびその変形も含めて、全てウグイスの一個体の谷渡りの収録音をテーマとしたものである。

これらは、リズム、音高のいずれもソナグラムから忠実に読み取ったり、また正確な聴音を試みることはせず、収録音を基に新たな素材を制作した。その理由として、もともと12半音での音高からならず、量子化が簡単なリズムの音素材ではないことがある。また、鳥の鳴き声のレジスターは高く、B6（ト音記号で上第五線）前後で変化しているが、これは弦楽器では高すぎるため、適度にオクターブ以上上げて扱う。以下の図5、6にこれらの収録音から起こしたテーマと変奏をそれぞれ記す。

これらをテーマとして、弦楽四重奏作品を構成した。音楽的要素はこれらの旋律と和声、他にクラスター、を用いている。音色としては、高音による雑音性の高いトリルを用いている。

5. 本手法の発展の可能性

多くの小鳥のさえずりはウグイスと同様に音高が高い。またソナグラムで明らかなどおり、周波数情報はさほど豊かではない。したがって旋律、リズムが主たる音楽的な要素であるが、創作上でこれに音色変化などを加えると新たな可能性が考えられる。

6. まとめ

鳥の鳴き声を採譜して音楽作品とする試みはよく知られており、本作品はこの枠組みでウグイスの谷渡り、という鳴き方を基に作られた。特徴は、2連音を繰り返す標準的な鳴き方の他、鳴き声の「訛り」として、3連音の繰り返しという、一般的には聞かれず非常に希少価値の高い素材を音楽的テーマとしている点である。さらに、リズムのヴァリエーションまで提供されており、音楽の一片以上素材をウグイスから得ている。

われわれは環境音を擬音語化して言語的に用いている。その際、日本語の擬音語は、そこに環境音の特徴とともに、日本語らしさも投影されている。環境音の採譜はこれと類似した変換で、楽器で演奏可能とするための工程としての、レジスター調整、12音化、リズム化とともに、自身の音楽に対する指向が反映される。これらの工程は興味深い。

鳥の鳴き声からの音楽化について、今回は音高とリズムに依存した音楽制作であったが、今後は音色の利用という視点でも取り入れていきたい。

7. 参考文献

小坂直敏, 2022. 「サウンドエフェクトの基礎と応用」, 『日本音響学会誌』 78(2).

「ウグイス ケキョケキョケキョ(谷渡り)」https://www.youtube.com/watch?v=F_tsgUb6MJE

「【解説付き】ウグイスの鳴き声3種(さえずり・谷渡り・地鳴き)」https://www.youtube.com/watch?v=Ispt-_2zfCs

8. 参考作品

ダカン, 1998. 「かっこう」, 全音楽譜出版社 ISBN4119111385.

Maurice Ravel, 2010. *Ma Mere L'oye : II Petit Poucet*, デュラン社.

Olivier Messiaen, 1956. *Oiseaux exotiques*, Universal Edition Ag.

Olivier Messiaen, 1958. *L'oiseaux etranger*, Alphonse Ludac.

Olivier Messiaen, 1962. *Set Haikais, Esquisses Japonaises*, Alphonse Leduc.

小坂直敏, 2009. 「驥尾焚き火キビタキ、ユビキタス逆引き—コンピュータとオーケストラのための」オーケストラ・プロジェクト 2009, 東京交響楽団、小鍛冶邦隆 (指揮), 有馬純寿 (音響) 池袋東京芸術劇場, 2009.10.15.

ref7] 小坂直敏, 「黒鷯 (くろつぐみ) —ピアノのための」『子供たちに贈る音楽祭』 - 「21世紀の音楽」 主催: [ソノリウム] 朝川万里 (Piano), 2012.5.3

9. 著者プロフィール

小坂直敏 (Naotoshi OSAKA)

小坂直敏 早稲田大大学院を修了後, NTT 研究所を経て, 電子音楽を中心に音響研究と作曲を NYCEMF(NY 市電子音楽祭), ICMC(国際コンピュータ音楽会議) 等に発表. オーケストラ作品は 1999 以降 5 作品を発表. 近作はピアノ協奏曲第 2 番 (2021), 同第 3 番 (2022). 2002-2009 年まで ICMA(国際コンピュータ音楽連盟) アジアオセアニア地区理事. 2009-2018 まで本会会長. 現在早稲田大および東京電機大学研究員. 博士 (工学), 東京電機大学名誉教授.



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際 ライセンスで提供されています。ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧頂るか、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。

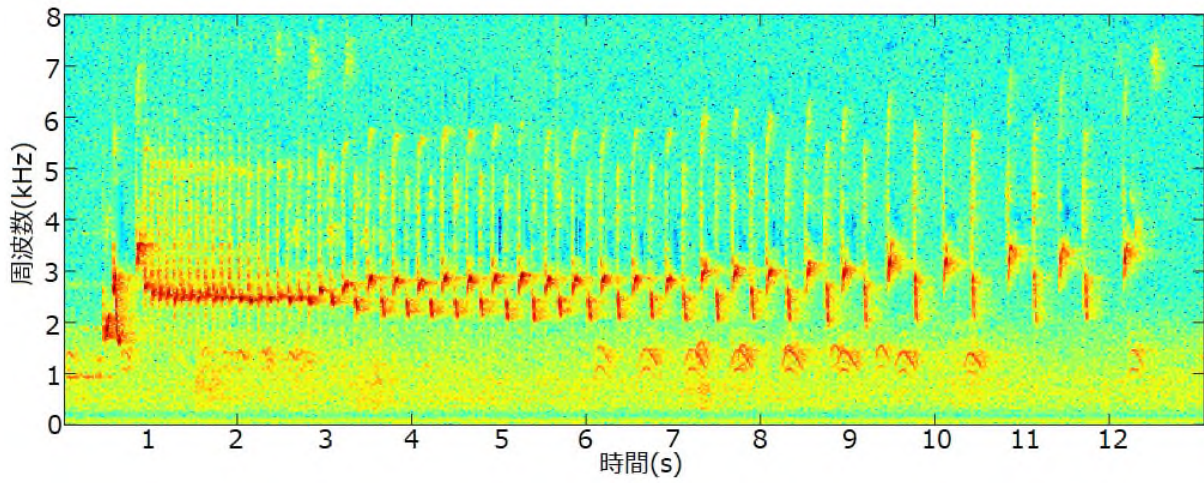


図 2: ウグイスの谷渡り (1) 標準的な 2 連の単位

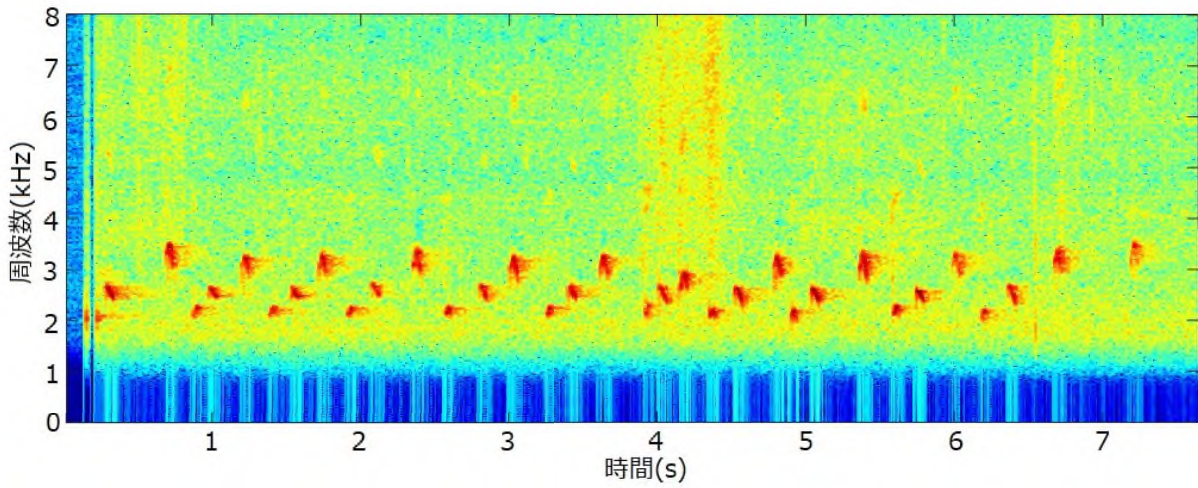


図 3: ウグイスの谷渡り (2) まれに起こる 3 連符

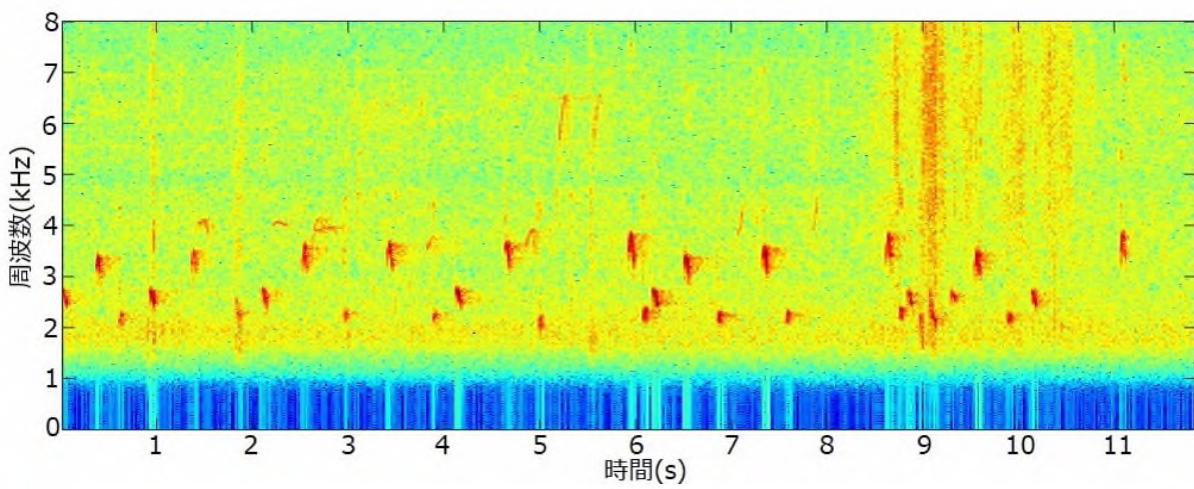


図 4: ウグイスの谷渡り (3) 同一個体による 3 連のリズムのヴァリエーション例

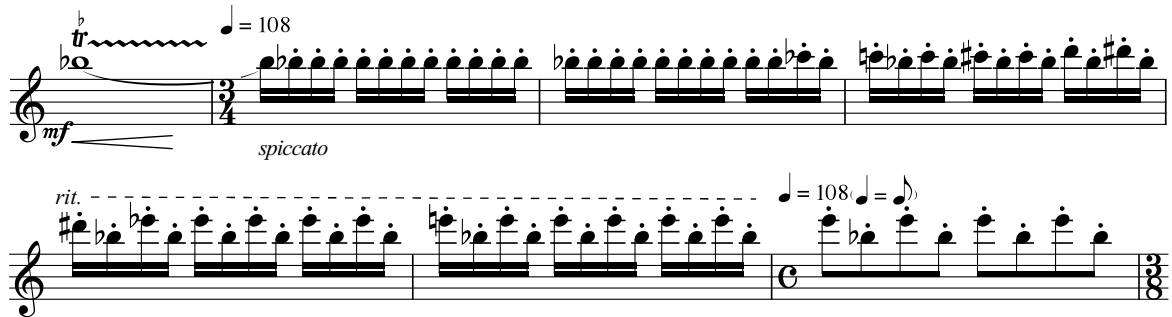


図 5: 収録音より起こした谷渡りのテーマ



図 6: テーマの変奏 (収録音より着想した変奏主題)